

令和5年度 熊本市 英語教育改善プラン

目標

授業中、50%以上の時間、児童による言語活動を行っている学校が引き続き90%以上となるよう児童による言語活動の充実を図る。

1. 現状

改善が進んだ点

①小学校5, 6年生ともに、9割以上の学校で授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている。

未だ改善が必要な点

①今年度のパフォーマンステストの実施が、小学校5年生で2校、6年生で1校について、実施されていない。

2. 分析

①小学校教員を対象としたブラッシュアップイングリッシュセミナーで、言語活動の充実について研修を行った。また、教育センターによる授業づくり支援訪問で指導・助言を行った。

①児童のコミュニケーション場面で、できていることをみとる評価への意識が全ての学校までは浸透していない。

3. 施策・事業

①小学校教員を対象とした研修会の実施や、教育センターによる授業づくり支援訪問を通して、外国語教育の充実を図る。

①①の研修会で、指導と評価の一体化について理解を深めるとともに、パフォーマンス評価の具体例を紹介する。

・一定の英語力を有する教員採用の志願者数を増やすために、今年度も引き続き一定の英語力について取得見込みの者まで加点対象とすることで、志願者の拡充を図る。

令和5年度 熊本市 英語教育改善プラン

目標

授業中、50%以上の時間、生徒による言語活動を行っている学校が80%以上となるよう生徒による言語活動の充実を図る。

1. 現状

改善が進んだ点

①中3生の求められる英語力について、CEFRA1相当を有すると判断できる生徒が約57%となり、年々増加傾向である。

未だ改善が必要な点

①授業における、生徒の英語による言語活動について、中学校の約75%が、授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている状況があるが、100%には達していない。

2. 分析

①教育センターの授業づくり支援訪問や英語教員を対象とした研修会等で授業改善への意識が高まったことと、英検IBAを活用して、客観的に英語力を判断できていることが原因だと考えられる。

①授業時間中の言語活動が占める時間の割合は年々増加しているが、教員が日本語で説明したり、英語による一方的な指示をしたりする場面が依然としてある。

3. 施策・事業

①中学校教員を対象とした研修会の実施や、教育センターによる授業づくり支援訪問を通して、教師の授業改善をさらに推進することで、生徒の英語力の一層の向上につなげる。

①①の研修会やALTの授業見学を行い、授業中の英語による言語活動のさらなる充実を図る。また、言語活動の好事例について、研修会等の機会を通して、各学校での実践につなげる。

令和5年度 熊本市 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションⅠの授業中、50%以上の時間、生徒による言語活動を行っている学校（学科）が80%以上となるよう生徒による言語活動の充実を図る。

1. 現状

改善が進んだ点

①学習到達目標の整備状況について、高等学校では設定、公表、達成状況の把握が全て100%である。

未だ改善が必要な点

①コミュニケーションⅠの授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校（学科）の割合が約67%である。

2. 分析

①英語教員を対象とした中高合同の研修会や校内研修において、年間指導計画や学習到達目標の作成等について、周知を行った成果だと考えられる。

①言語活動についての意識は高まってきているが、教員が日本語で説明したり、英語による一方的な指示をしたりする場面が依然としてある。

3. 施策・事業

①英語教員を対象とした中高合同の研修会の実施や、校内研修への参加を通して、バックワードデザインによる授業設計について周知を図ることで、学習到達目標の一層の効果的な活用を目指す。

①①の研修会等を通して、授業中の英語による言語活動のさらなる充実を図る。また、言語活動の好事例について、研修会等の機会を通して、各学校での実践につなげる。